

## 大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-Global） 第 4 回公募 新規採択課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-Global）における第 4 回公募の新規採択課題 8 件を決定しました（別紙）。

本プログラムは、大学等発の技術シーズを核にして、社会・経済に大きなインパクトを生み、国際展開を含め大きく事業成長するポテンシャルのあるディープテック・スタートアップの創出を目的とします。この目的を達成するため、技術シーズの事業開発に責任を有する事業化推進機関および研究開発に責任を有する研究代表者が共同代表者となり、事業化推進機関のプロジェクトマネジメントのもとに事業化マイルストーンおよび研究開発マイルストーンを設定し、両者が一体的に課題を推進します（参考）。

今回は 2025 年 7 月 30 日（水）から 10 月 21 日（火）まで提案募集を行ったところ、36 件の応募がありました。外部専門家で構成された委員会による書類審査と面接審査を実施し、その結果を基に 8 件の新規課題を決定しました。

今後、契約などの条件が整い次第、研究開発を開始する予定です。

なお、本プログラムの詳細については以下ウェブページをご覧ください。

URL : <https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/deeptech/index.html>

### <添付資料>

別紙：大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム  
採択課題一覧（第 4 回公募審査分）

参考：大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム 概要

### <お問い合わせ>

#### <事業に関すること>

科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町 7 K's 五番町

渡部 博之（ワタナベ ヒロユキ）

E-mail : [start@jst.go.jp](mailto:start@jst.go.jp) ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

#### <報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : [jstkoho@jst.go.jp](mailto:jstkoho@jst.go.jp)

### <科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム  
採択課題一覧（第4回公募審査分）

課題名	事業化推進機関※ <sup>1</sup>	研究代表者※ <sup>2</sup>	課題概要
コンパクト長期蓄電システム、“カーボン空気二次電池システム”プロトタイプ機の開発及び事業化推進	株式会社みらい創造 インベストメンツ	東京科学大学 物質工学院 教授 伊原 学	炭素と二酸化炭素の反応によるギブズエネルギー差を充放電に利用する“カーボン空気二次電池システム”の社会実装によって、都市部の再生可能エネルギー由来の脱炭素電力を安価に供給し、エネルギーシステムを変革するスタートアップの設立を目指す。
深過冷却型液体電解質の社会実装と革新的Li系二次電池QFBの国際展開	QB キャピタル合同 会社	横浜国立大学 大学院工学研究院 教授 上野 和英	電気自動車メーカーの課題である「リチウムイオン電池の熱暴走」「入出力特性不足」「コスト高」を回避するべく、不燃かつ高性能の液体電解質と当該材料の特性を最大限発揮する蓄電池を供給するスタートアップの設立を目指す。
“交流磁場で治す” 脳腫瘍治療装置の 開発	株式会社みらい創造 インベストメンツ	横浜市立大学 医学部 准教授 梅村 将就	悪性脳腫瘍をはじめとした難治性がんを対象に、交流磁場を活用した非侵襲型治療機器を開発・事業化し、患者負担の少ない“第4の治療法”の実装とグローバル展開を実現するスタートアップの設立を目指す。
腸の自己再生力を 呼び覚ます:粘膜炎 修復に基づくファースト インクラス創業への 挑戦	株式会社ケイエス ピー	東京薬科大学 生命科学部 教授 冨塚 一磨	炎症性腸疾患治療のアンメットニーズに応えるため、腸特異的ターゲティング分子と組織再生因子Rスポンジンを融合した複合バイオ製剤「腸移行性Rスポンジン」を開発し、粘膜炎の革新的治療薬を実現するスタートアップの設立を目指す。

課題名	事業化推進機関※1	研究代表者※2	課題概要
新規合成・量産技術による革新的アンモニア合成触媒の社会実装	STATION Ai 株式会社	名古屋大学 未来社会創造機構 教授 永岡 勝俊	コバルト・バリウム系新型触媒と連続触媒合成プロセスの技術を活用し、アンモニア製造プラントでの大幅なコスト削減が可能なアンモニア合成触媒を提供するスタートアップの設立を目指す。
持続性に優れた核酸医薬を用いた 4R タウオパチーの疾患修飾薬開発	RDiscovery 株式会社	滋賀医科大学 神経難病研究センター 教授 石垣 診祐	神経変性疾患の疾患修飾薬として有効な人工核酸を開発し、サルでの非臨床 POC の獲得と臨床 POC 構築までを担い、神経変性疾患の治療法確立を実現するスタートアップの設立を目指す。
人工リボソームによる次世代特殊ペプチド・タンパク質医薬の創出	ANRI 株式会社	大阪大学 大学院工学研究科 教授 青木 航	人工リボソーム技術を核として、次世代特殊ペプチド・タンパク質医薬を創出し、難治疾患の治療を実現するグローバルスタートアップの設立を目指す。
抗ヒト活性型 IL-18 ヒト化モノクローナル抗体による進行性間質性肺疾患（進行性肺線維症）の治療薬開発	三菱 UFJ キャピタル株式会社	長崎大学 大学院医歯薬総合研究科 教授 川上 純	ヒト活性型 IL-18 ネオエピトープを特異的に認識するモノクローナル治療抗体とヒト活性型 IL-18 ネオエピトープ ELISA を組み合わせた進行性間質性肺疾患に対する選択的 precision blockade 治療体系を実現するスタートアップの設立を目指す。

※1 事業化推進機関が複数の場合は代表事業化推進機関を記載

※2 所属・役職は応募時点

## 大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム 概要

### 1. 大学発新産業創出基金事業の趣旨

大学発新産業創出基金事業は、スタートアップ育成5か年計画（2022年11月政府発表）などを踏まえ、日本における大学等発スタートアップ創出力の強化に向けて、研究開発成果の事業化や海外での事業展開の可能性検証を視野に入れた研究開発を推進するとともに、地域の中核となる大学等を中心とした産学官共創による大学等発スタートアップ創出支援などの実施を可能とする環境の形成を推進します。

### 2. ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-Global）について

#### （1）概要

本プログラムはディープテックの技術シーズを核に国際市場への展開を目指す大学等発スタートアップの創出に向けて、概念実証以降のステップに入ることが適切と判断され、審査を経て採択された課題の事業開発と研究開発を支援します。

採択課題は、技術シーズの事業開発に責任を有する事業化推進機関および研究開発に責任を有する研究代表者が共同代表者となる体制をとり、事業化推進機関のプロジェクトマネジメントのもと、社会・経済に大きなインパクトを生み、国際展開を含め大きく事業成長するポテンシャルを有するディープテック・スタートアップの創出を目指した取り組みを推進します。

#### （2）研究開発期間

最長3年程度（2029年3月末まで）

#### （3）研究開発費（研究開発期間総額、直接経費）

原則3億円程度まで

※正当な理由がある場合、上限5億円

以上